「学び」イベント情報 募集中!!

研究者の皆様が市民へ向けて開催している公開講座やシンポジウム等の情報提供をお待ちしております!

掲載料は無料です。

2 FEB

ろうさい医イはなし「肺癌の抗がん剤」
2月28日(水) 13:30▶14:15 無料 申込不要
講　師　榊原　智博（東北労災病院呼吸器内科副部長）
場所 東北労災病院　1 階待合ホール
主催者 東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL http://www.tohokuh.johas.go.jp/

3 MAR

第 51 回リベラルアーツサロン：フランス近代詩を読む―ボードレールからの出発―
3月 2日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　坂巻　康司（東北大学大学院国際文化研究科准教授）
場所 片平北門会館 2 階エスパス（片平キャンパス）
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

日本心理学会公開シンポジウム“共感する心”を科学する
3月 3日(土) 13:00▶17:00 無料 要申込
講　師　米田　英嗣（京都大学）他
場所 東北大学 川内キャンパス（A エリア）講義棟 A 棟 A200 教室　定員 300 名
主催者 公益社団法人 日本心理学会　問合先 TEL 03-3814-3953
URL https://www.psych.or.jp/event/sympo2017_kyokan.html

第 7 回れきはく講座「宮城県における縄文中期―七ヶ宿町小梁川・大梁川遺跡を中心に―」
3月 4日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要
講　師　相原　淳一（東北歴史博物館学芸職員）
場所 東北歴史博物館　3 階講堂
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

まちなか美術講座（第 53 回）「求道の画家 岸田劉生と椿貞雄―その情熱と友情」
3月10日(土) 13:30▶15:00 無料 申込不要
講　師　加野　恵子（宮城県美術館学芸員）
場所 東北工業大学一番町ロビー 2 階ホール　定員 120 名
主催者 宮城県美術館×東北工業大学一番町ロビー　問合先 TEL 022-221-2111
URL http://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/

第 8 回れきはく講座「名取鍬について―超鋭角な鍬の謎―」
3月11日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要
講　師　今井　雅之（東北歴史博物館学芸職員）
場所 東北歴史博物館　3 階講堂
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

ろうさい医イはなし「健康診断と人間ドックのポイント」
3月14日(水) 13:30▶14:15 無料 申込不要
講　師　長澤　美穂（東北労災病院健康診断部副部長）
場所 東北労災病院　1 階待合ホール
主催者 東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL http://www.tohokuh.johas.go.jp/

第 150 回サイエンスカフェ：追跡！体内の薬のゆくえ　～機能画像からはじまる未来医療～
3月16日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　志田原　美保（東北大学大学院医学系研究科講師）
場所 せんだいメディアテーク　1 階オープンスクエア
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

宮城大学公開講座「高齢化社会の資産管理と対策―相続税対策・遺言・家族信託・成年後見―」
3月24日(土) 10:00▶12:00 無料 要申込
講　師　内田　直仁（宮城大学准教授）
場所 宮城大学サテライトキャンパス SS30 2 階　定員 30 名
主催者 宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL http://www.myu.ac.jp/

ろうさい医イはなし「乳癌について」
3月28日(水) 13:30▶14:15 無料 申込不要
講　師　本多　博（東北労災病院乳腺外科部長）
場所 東北労災病院　1 階待合ホール
主催者 東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL http://www.tohokuh.johas.go.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

第40回

名著への旅

『それでも三月は、また』
谷川俊太郎　他著
講談社

（2012年2月24日　初版発行）

あの日、多くの人々が言葉を失った。言葉を生業とする作家たちもまた。このアンソロジーは、詩人・作家 17 人による、震災後初めての、またはそれに近い作品を集めたものである。

在仙作家・佐伯一麦氏は「日和山」で、港町に住む親しい友人との震災直後の再会から、最大余震の頃までの 1 カ月ほどの交流を描く。文中の友人の津波体験、避難所での様子などの描写を読み返す中で、当時よく見聞きした同様の話や、もはや忘れかけている震災直後の自分の体験を思い起こす。

高速道の吾妻 PA で味わった大きな揺れ。沿岸部の甚大な被害を伝えるカーラジオ。停電の数日間。活躍した古い石油ストーブ。東北以外の親戚や友人からの支援物資のありがたさ。一方で、自分はそれほどの被害ではなく、沿岸部などの被災者と思いを共にできない居心地の悪さのような氣持ちも。

「あの子も、口には出さないけれど、人が流されていくのをずいぶん見てしまったはずですから」との台詞に、そういう体験をしてしまった多くの子どもの存在を再認識する。その子たちが筆の力を持ったとき、「震災と文学」は新たな地平を見せるのだろうか。

（前進）

Web版もあります

まなびのめWeb版　検索

Webページは随時更新!!

Web版では、紙版に掲載しきれないイベント情報や過去の研究者インタビュー記事、紙版バックナンバーを閲覧することができます。他にも、「編集部だより」や「読者の声」など…Web版ならではのオリジナルコンテンツも！ぜひ一度、アクセスしてみてくださいね♪

facebook Twitter やってます!!

Facebook ページへは こちらから⇒

Twitter ページへは こちらから⇒

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「明治150年」

2018年4月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先 / 問い合わせ先

〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
（FAXは24時間受付　電話受付時間 10:00～16:00 土・日・祝日除く）
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第39号／発行日2018年1月5日
企画・編集　「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

「まなびのめ」編集部　川又進　佐藤曜　菅野麻実　三上志穂
オブザーバー：笹氣義幸　寺田征也（明星大学）　佐々木隼相（東北大学大学院）
協力：株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本

©笹氣出版印刷株式会社　無断で複写、複製、転載することを禁じます。

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

ご自由にお持ち帰りください。
TAKE FREE 無料

図書カード懸賞付クイズあります
詳しくは中面へ

仙台市発 学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

季刊誌 2018. 1　第39号

学びの庭におじゃまします　シリーズ「東日本大震災」[7]
―芸術・文化―

「コトのアート」で被災者支援を

宮城教育大学　教育学部　准教授
［現代美術（プロジェクトワーク）、美術教育、教育情報学］
村上タカシ 先生

漁師の生活文化から防災・減災へ

東北大学　災害科学国際研究所　教授
［民俗学］
川島　秀一 先生

行ってみよう！「学び」の場所へ

- これからの主な「学び」イベント 39件 掲載！
- 「学び」イベント に行ってきました
- 名著への旅 『それでも三月は、また』（谷川俊太郎他）
- Voice Park

Web版 随時更新中！　まなびのめ
http://www.manabinome.com/

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容等に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認ください。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は **Web 版に掲載**しております。ぜひご覧ください。http://www.manabinome.com/

定期開催

トワイライトサロン「天文台長土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 16:50▶17:30 無料 申込不要
講　師　土佐　誠（仙台市天文台長）他
場所 仙台市天文台　オープンスペース
主催者 仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL http://www.sendai-astro.jp/

開催中

企画展「芹沢銈介コレクション インドネシア　島々の絣（かすり）」
～2月 1日(木) 10:00▶16:30 有料 申込不要
場所 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　（入館は 16:00 まで）
主催者 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館　問合先 TEL 022-717-3318
URL https://www.tfu.ac.jp/kogeikan/

第 32 回企画展「全線開通 100 周年記念　陸羽東線展」
～3月 3日(土) 10:00▶16:00 無料 申込不要
場所 東北福祉大学ステーションキャンパス館 3 階・鉄道交流ステーション
主催者 東北福祉大学・鉄道交流ステーション　問合先 TEL 022-728-6612
URL http://www.tfu.ac.jp/rmlc/

1 JAN

平成 30 年新春吉例「めでた掛け～美術館で笑い初め～」
1月 5日(金)～3月 3日(土) 9:00▶16:30 有料 申込不要
場所 福島美術館
主催者 社会福祉法人共生福祉会　福島美術館　問合先 TEL 022-266-1535
URL http://www.fukushima-museum.jp/

第 2 回れきはく講座「縄文土器の隠れた知恵」
1月14日(日) 13:30▶15:00 無料 申込不要
講　師　菊地　逸夫（東北歴史博物館学芸職員）
場所 東北歴史博物館　3 階講堂
主催者 東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL http://www.thm.pref.miyagi.jp/

川内キャンパスのむかしむかしⅠ～仙台城跡二の丸～
1月15日(月)～2月 9日(金) 10:00▶17:00 無料 申込不要
場所 東北大学史料館（月～金曜開館。土・日・祝は閉館）
主催者 東北大学埋蔵文化財調査室　問合先 TEL 022-217-4995
URL http://web.tohoku.ac.jp/maibun/

市民公開講座 No.412「仙台市におけるプラスエネルギーを目指した高断熱住宅の性能評価」
1月19日(金) 18:00▶19:30 無料 申込不要
講　師　高木　理恵（東北工業大学安全安心生活デザイン学科准教授）
場所 東北工業大学一番町ロビー　2 階ホール　定員 120 名
主催者 東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL http://www.tohtech.ac.jp/

第 148 回サイエンスカフェ：食べ物を美味しくする加工技術　～故きをたずねて新しきを知る～
1月19日(金) 18:00▶19:45 無料 申込不要
講　師　藤井　智幸（東北大学大学院農学研究科教授）
場所 青葉山コモンズ 1 階ラーニングコモンズ（青葉山キャンパス）
主催者 東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL http://cafe.tohoku.ac.jp/

講座仙台学 2018「伊達政宗のまちづくり―城下町仙台の成り立ち」
1月20日(土) 13:00▶14:30 無料 要申込
講　師　木村　浩二（宮城学院女子大学非常勤講師）
場所 仙台市市民活動サポートセンター　6 階セミナーホール　定員 80 名
主催者 学都仙台コンソーシアム　問合先 TEL 022-214-3521
URL http://www.gakuto-sendai.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

シリーズ「東日本大震災」も７回目を数えます。今回のテーマは「芸術・文化」。
震災で起きたことの伝承や、復興のプロセスで、「芸術・文化」の果たす役割は大きいものがある、と考えられます。
まずは、アートの力で活動を続ける宮城教育大学・村上タカシ先生のお話をお聴きしましょう。

「コトのアート」で被災者支援を

「モノのアート」と「コトのアート」

私は美術の専門家として、学校教育と教員養成に携わってきました。現在の小学校の図工や中学校の美術では、作品の創作・観賞といった従来の内容に加えて、より幅広い創造や体験を楽しむ授業が行われています。創作の技術や表現を学ぶことはもちろん大切です。それに加え、自分の発想や集団の話し合いを基に、様々な行為そのものを楽しむ活動が、たとえば小学校の学習指導要領には「造形遊び」として定められているのです。

伝統的なものから最新のものまで文化に対して興味・関心を持ち、他者と協力・協調して何かを成し遂げる経験をし、コミュニケーション能力を身につける。これらは子どもたちの「生きる力」を育む今の学校教育の目標で、図工・美術以外の教科にも共通しています。

こうした美術教育の変化をアートの側から見ると、アートに対する考え方の広がりに対応しています。美術館に展示されている絵や彫刻もアートですが、現代では街頭や自然の中で展開されるアートも盛んです。従来の平面・立体作品を「モノのアート」、空間や時間を構成する過程や、体験を楽しむものを「コトのアート」と呼ぶことにしました。現代美術の作家でもある私は、この「コトのアート」に 20 年以上取り組んできました。

学生時代は版画を制作していたのですが、版画は原画・彫り・刷りなどの分業で創られることが珍しくありません。発想や技術だけでなく、互いの専門技能を認め合い、協力し合うコミュニケーション能力も必要です。また米国では、版画の技法を用いてアートとメディアやデザインとの境界に挑んだ、アンディ・ウォーホルらの美術家が活躍していました。そうした刺激も受けて、「コトのアート」に興味を持つようになったのです。

宮城教育大学　教育学部　准教授
専門＝現代美術（プロジェクトワーク）、美術教育、教育情報学

村上タカシ先生

《プロフィール》（むらかみ・たかし）熊本県八代市生まれ。東京学芸大学教育学部卒業。中学校教員、千葉大学・武蔵野美術大学・宮城教育大学の非常勤講師等を経て、2002 年より現職。美術家・アートプランナーとしても活動し、アート系 NPO 代表。宮城県文化芸術振興審議会委員。東北大学大学院教育情報学教育部博士前期課程修了。修士（教育情報学）。

作品を紙ではなくＴシャツに刷り、着ている写真を持ち帰る。ギャラリーの床に渦巻き状に畳を敷いて、その上で来場者と語り合う。自分の車に作品を詰め込んで街頭に繰り出し、路上に広げたり持ち歩いたりして展示する。大学卒業後も東京の中学校で美術を教えながら、そうした表現活動を行っていました。

1994 年、中学校丸ごといたるところに美術作品を展示したりパフォーマンスを行ったりする「学校美術館構想」という案を発表したところ、美術作家や関係者だけでなく保護者からも大きな反響があり、実現することになりました。様子が全国に報じられ、中学校の美術教科書にも掲載されたことで、「コトのアート」が学校教育の現場に広がったのです。期間限定の試みだからしっかり記録を残そうとビデオカメラを回し、動画を含むデータをパソコン用の記録媒体 CD-ROM にしたことも当時としてはかなり新しかったと思います。もしかしたらアート史上、世界初だったかもしれません（笑）。

東北地方には全く縁がありませんでしたが、宮城教育大学で非常勤から常勤になり、街なかでアートプロジェクトを展開するなどしてこの地に根を張りました。そして 2011 年 3 月に東日本大震災が発生すると、「コトのアート」と、アートで生まれた結びつきの力で被災者の支援に取り組み始めたのです。

被災者とともにアートを楽しむ

3 月 11 日は大学にいました。激しい揺れの後、晴れているのに雪が吹き付けてきたことを鮮明に覚えています。仙台市内の自宅に戻ると電氣・水道・ガスは止まっていて、夜はロウソクでしのぎました。家族にも受け持ちの学生にも大きな被害はありませんでしたが、沿岸部の学校に勤めていた本学卒業生も多く、津波の被害は甚大でした。

2009 年に仙台で立ち上げたアートプロジェクトの NPO（非営利活動団体）では、インターネットを活用していました。全国のアート関係者から、次々と情報が入ってきます。それを整理して発信していたところ、私の情報を基に支援物資を積んだトラックが仙台に集まり始めました。こうして災害支援や福祉関係の NPO などとも連携して、活動することになったのです。

市民のネットワークを活かした私たちは、行政の手が比較的届きにくい場所にも物資を運び、被災者の方々に喜んでいただきました。災害では自助・共助・公助が大切ですが、こうした「民助」とも言うべき民間の支援も重要です。生命や健康が脅かされている時、アートはほとんど役に立ちません。しかしアートが結ぶ人のつながりは、大きな力になるのです。

避難所が落ち着き始めると、今度は「コトのアート」の出番です。当初私たちは、アートで被災者を支援することには慎重でした。たとえば子どもたちに画材を配って絵を描いてもらう活動も、過酷で衝撃的な体験を思い出させ、苦しめることにつながりかねません。最初は楽しい作品やパフォーマンスを見せるなどして子どもたちに笑顔になってもらい、徐々に表現を通じて体験を客観視することや消化できるよう氣を配りました。

こちらが「アートです」と言っても、支援したい方々に理解され受け入れてもらえるとは限りません。たとえば仙台で 2003 年に行ったアートプロジェクトは、「空き店舗をきれいにしますよ」という申し出から始めました。私は壱弐参（いろは）横丁や文化横丁のような、小さな飲食・物販店が並ぶ路地が大好きなのですが、当時は空き店舗が目立っていました。そこで「活性化します」ではなく「アート作品を飾るギャラリーにさせてください」とお願いしたのです。作品を飾るだけでなく、マップや横丁限定通貨を作って PR したところ大いに賑わい、会期終了後には次々と新たな借り手が入りました。

被災者支援でも、まずは福祉団体と街頭でコーラスの企画などを行ったり、仮設住宅で食べ物を楽しむ会を催したり、チャリティー企画を開催し造形ワークショップや生活相談会のブースを設けたりしました。そうして被災者の方々との関係ができてから、アートを楽しむ活動を提供し始めたのです。

避難所や仮設住宅の環境はたいへん厳しいものでしたが、復興公営住宅に入居した後も、被災者の苦しみは続きます。避難所や仮設住宅で生まれた結びつきが失われ、孤独に耐えている方がたくさんいるのです。そうした方々と一緒にお汁粉を作って食べ、音楽や表現を楽しむ活動を、現在も継続中です。

アートを通して伝え続ける

「次の災害」に備えて、震災を広く伝える活動にも力を入れています。一つは津波で破壊された物を収集・展示する「3.11 メモリアルプロジェクト」で、震災の 1 カ月後から、道路標識の残骸やねじ曲がったドラム缶等、津波の恐ろしさを示す物を集めて歩きました。思い出したくない、忘れたい、という被災者もいることは理解しています。しかし広島の原爆ドームのように、物があるからこそ伝わることもあると思うのです。

震災遺物の展示は国内だけでなく、韓国、台湾、ニューヨークでも行っています。この 12 月にはインドネシアで開催しました。2004 年のスマトラ島沖地震では、津波などで 30 万人が命を失っています。アチェの津波博物館で東日本大震災の遺物も展示し、現地の方々と共に防災・減災の誓いを新たにしました。

もう一つは、津波が間近まで来た学校などにエドヒガンザクラを植える「桜 3.11 学校プロジェクト」です。津波の脅威と到達地が長く伝わるよう期待して、長寿で知られるこの種を選びました。あわせて、子どもたちに地域への愛着を抱き、地域の未来を担ってもらいたいという願いを込めて、風船にメッセージを書いて空に放ったり、桜色の花火を打ち上げたり、桜色のリレーバトンを寄贈するなどの活動を行っています。

私は熊本県八代市の出身です。2016 年 4 月の熊本地震では車に支援物資を積んで、仙台からおよそ 24 時間かけて現地に入り、支援が届きにくい高齢者施設などに食料を届けました。宮城の様々な方から物資を提供していただき、被災地同士を結ぶ役割も果たせたと思います。熊本でもアートワークショップや、震災遺物を残す活動を提案し、現地の友人たちと継続中です。災害は時間の経過とともに風化すること、伝承が難しくなることが避けられません。しかし必ずまた起こります。私はアートを通して伝え続け、防災・減災につなげていくつもりです。

アートは敷居が高い、と感じる方もおられるでしょう。しかし集まって食べたり楽しんだりするアートもあります。そうした体験もまた学びですから、どうか固定観念にとらわれず、楽しく学び続けていただきたいと思います。

（取材＝ 2017 年 11 月 24 日／宮城教育大学 村上タカシ研究室にて）

懸賞

図書カードを当てよう！ **まなびめクイズ**

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　桜の植樹で津波到達地を後世に伝えようとするプロジェクトの名称は？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。川島秀一先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびのめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2018年2月28日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

シリーズ「東日本大震災」―芸術・文化―、お二人目は、「災害文化」という研究分野があるとのことで、
東北大学災害科学国際研究所・川島秀一先生にお話を伺いました。
人々の普段の暮らしに目を向ける「民俗学」の視点で、災害の伝承、これからの防災・減災に迫ります。

漁師の生活文化から防災・減災へ

気仙沼市に勤めながら民俗学を研究

2011 年の震災当時、私は気仙沼市のリアス・アーク美術館に勤めていました。職場は高台でしたが、海の近くにあった自宅は津波で流され、母を亡くしました。

私は生まれも育ちも気仙沼です。小学校 2 年生だった 1960 年には、チリ地震津波で自宅が浸水しました。その後、建て替えられ、暮らしていた実家が被災したため、私は生涯に 2 度家が津波に襲われたことになります。1 度目は家族が無事でしたが、今回は母が亡くなり、それまでの研究資料も失いました。

高校卒業後は東京に出て、大学で社会学を学びました。研究対象の土地を訪ね、人々の話を聞くなどの調査を重ねるうちに、同じくフィールドワークを行う民俗学にも関心を持ち始めます。在学中の 1975 年が、民俗学の創始者とも言うべき柳田国男の生誕百年にあたっていたこともあり、社会的にも民俗学への注目が高まっていました。

卒業論文では、日本に返還されて間もなかった沖縄の離島を取り上げようと、友人と 2 人でテントと米を背負い、大阪から船で向かいました。波照間島などに 1 カ月ほど滞在し、お寺も神社もないことに驚く一方、気仙沼にもいた巫女（ふじょ）が、神と人々、あの世とこの世を結んできたことを知ります。調査を進めるうちに、数値化して考察する手法の社会学よりも、人々が何を考えて生きているのかという、もっと人の心をすくい上げられるような研究をしたいと思うようになりました。

結局、卒論は柳田国男の研究で書き、民俗学の研究者を志します。やがて、司書の資格を得て東北大学の附属図書館で働くことになりました。職場で古文書の読み方を学び、「東北民俗の会」に入会してフィールドワークを行うなど、充実した 3 年 3 カ月でした。気仙沼市が市史を刊行することになり、その編纂に携わるために帰郷したのは 1980 年の夏です。18 年をかけて全 9 巻 10 冊を完成させた後も、市の職員として勤務しながら民俗学の研究を続け、2010 年に「追い込み漁」の研究論文で博士号を取得しました。

鹿児島県喜界島の漁師さんたちからの聞き書き調査（2008.5）

防災・減災に結びつく民間伝承

民俗学は「野（の）の学問」とも呼ばれています。社会学や歴史学などと重なる部分もありますが、文献だけでなく、実際に使用された物の調査や聞き書きなどを通して、一般の人々の生活文化・精神文化を研究します。

業績を残した個人の名や大事件が連なる「歴史」に対して、「民俗」は無名の人々が日常で営み、伝えてきたものが対象です。民間の伝承・風俗・信仰などは、たとえ現在の価値観から見て非合理的であっても、その土地や時代に生きた人々にとってかけがえのない価値を持っています。一方、当たり前すぎて文字で記録されなかったり、物が保存されていなかったりすることも少なくありません。

主に私は漁業に携わる人々の仕事や、共同体との関わりを記録・考察してきました。聞き書きした内容には、記憶違いや伝聞も含まれます。相互に内容を突き合わせたり、文献等の資料と照らし合わせたりして事実に迫る必要はもちろんありますが、その人やその地域にとって何が大切で何が正しいのかを、内側から理解することも必要なのです。

「職業」と比べると、「なりわい」とも読む「生業」という言葉は、生活や家族や地域に密着した意味合いを持っています。漁を生業とする人、その家族、地域は、浜ごとに独自の文化を育んできました。海という、人間のコントロールが効かない自然を相手にする仕事では、大漁に沸き、不漁に泣き、時に命がけの決断を迫られます。漁業者は「海で」生活するのではなく、「海と」生活しているのです。

震災では、津波の襲来を知った漁師たちが、沖に出すことで船の損壊を防ごうとする「沖出し」が多く行われました。成功した例もありますが、命を失ったり、船は助かっても自宅が損壊し、家族が津波の被害に遭ったりした人も少なくありません。

2 日前の 3 月 9 日にも三陸沖を震源とする地震が発生し、岩手と宮城で津波が観測されていました。女川の出島（いずしま）の漁師はその夜、家族会議を開いて「次の地震では家や港には近づかず、避難所に逃げる」と確認していたそうです。ところが 11 日に地震が起きると、とっさに「沖出し」しようと海に向かっていました。伝統的な仕事の知識・技術や、地域の芸能・神事は、頭よりも「体で」覚えております。生業を成り立たせ、自分と家族と地域を生かしてくれている船を救おうとする行動を、単に無謀だと責めることはできません。

災害科学国際研究所で私がいるのは、「人間・社会対応研究部門」の「災害文化研究分野」という研究室です。「災害文化」という言葉は一般的ではありませんが、私はこれを「人間と自然の付き合い方」と広く捉え、主に各地で自然を相手にしている生業者の災害伝承を収集しています。災害時と災害後だけでなく、災害前の日常的な生活文化・精神文化を深く知ることで、防災・減災に結びつけたいと考えています。

災害の記憶を継承し、教訓を伝える形は地域によって様々です。子どもたちが参加する年中行事や慣習の中に、明示されないながら組み入れられることもあります。また記念碑に比べて供養碑は、毎年の儀式で死者に供物を捧げるなどして意識し直されることで、より長く確かに災害を後世に伝えてきました。たとえ非合理的・非効率的に見えても、こうした形での伝承は防災・減災に大きな役割を果たしているのです。

被災者に風化はあり得ない

震災時に私が勤務していたリアス・アーク美術館は、気仙沼だけでなく南三陸町も含む宮城県沿岸北部の、芸術・文化・民俗を調査・研究・展示する施設です。あの日、気仙沼の市街地は瓦礫の山に、湾全体は火の海になって大変危険でした。翌日ようやく帰宅すると、家は門と土台しかありません。母の行方は分かりませんでした。

震災から 1 年後の春、私は神奈川大学の日本常民文化研究所に赴任しましたが、気仙沼を離れることにはためらいもありました。ところが新たな住居を契約しようと不動産会社の事務所にいたその時、私に宮城県警から、母の遺体を確認したという電話が入ったのです。驚くとともに、母に背中を押してもらった氣持ちになりました。

ところがさらに 1 年後、今度は東北大学からお誘いをいただきます。また大いに迷いましたが、民俗学的なアプローチで被災地の災害文化を研究することは自分の務めであろうと考え、移籍を決断しました。今は、独学のかたちで民俗学を研究し続けてきて良かったと思っています。2013 年の秋、研究所は気仙沼にサテライトオフィスを開設しました。年に数回「防災文化講演会」を開いていますが、研究者が一方的に講演するのではなく、地域の方々と相互に知見を交換する場にしています。

行政は海が見えないほど高い堤防を造り、土地をかさ上げし、高台に宅地を造成する「近代防災」「近代復興」を急ぎます。しかしこれら全てを行う必要があるのでしょうか。かつて暮らした人々は、その土地にまた戻ってきて、生業を頑張ろうと思うでしょうか。私は被災者の話に耳を傾け、災害前の暮らしをどう取り戻すかという観点で復興を考える必要が、もっとあると思うのです。

また防災上、最新の機器で素早く情報を伝え、避難を促すことは有効でしょう。しかし便利さに慣れた私たちは、とっさに身を守れる場所を見つけ、そこに駆け込むような感覚の鋭さや、判断力・行動力を失ってしまってはいないでしょうか。

私はこの春に定年を迎えますが、民俗学を学び続けるつもりです。皆さんも自分の過去を振り返って記録したり調べたりする学びをしてみてはいかがでしょう。災害などの大きな出来事だけでなく、昔食べた生卵や納豆のおいしさについて思い出すことからでも、立派な研究につながります。

間もなく震災から 7 年となり、あちこちから風化を懸念する声が聞こえてきます。しかし、私を含め被災者に風化はあり得ません。節目にあたっては、忘れたくても忘れられずにいる人々の存在にも、思いを寄せていただければ幸いです。

（取材＝ 2017 年 11 月 29 日／東北大学青葉山キャンパス
災害科学国際研究所棟 5 階　災害文化研究分野研究室にて）

東北大学　災害科学国際研究所　教授
専門＝民俗学

川島　秀一先生

《プロフィール》（かわしま・しゅういち）1952 年宮城県生まれ。法政大学社会学部卒業。博士（文学）。東北大学附属図書館、気仙沼市に勤務。宮城教育大学非常勤講師、神奈川大学特任教授を経て、2013 年より現職。気仙沼市では市史編纂室、図書館、リアス・アーク美術館に勤務し、同副館長を務めた。著書に『海と生きる作法―漁師から学ぶ災害観』『安さんのカツオ漁』『津波のまちに生きて』『魚を狩る民俗―海を生きる技』『追込漁』『カツオ漁』『漁撈伝承』など。

懸賞

図書カードを当てよう！　まなびめクイズ　正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2　災害研・気仙沼サテライトオフィスが定期開催する「学び」イベントは？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。村上タカシ先生の記事もご覧ください。

応募方法　はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2018年2月28日 当日消印有効

キーワード・タグ検索もできます

Web版はより多くの情報を随時更新しています。

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com/

1 JAN

第２回　考古学講座「島国の心と暮らしの革命―縄文から弥生へ―」
1月20日(土) 13:30▶15:00
講　師　松木　武彦（国立歴史民俗博物館教授）　有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム研修室　定員 60名
主催者　地底の森ミュージアム　問合先 TEL 022-246-9153
URL　http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/

定例公開講演会「アメリカ文学とカリブ海」
1月20日(土) 14:40▶16:10
講　師　井上　正子（東北学院大学教養学部講師）　無料　申込不要
場所　東北学院大学泉キャンパス２号館３階　230教室
主催者　東北学院大学英語英文学研究所　問合先 TEL 022-264-6401
URL　http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

講座仙台学 2018「仙台都市圏の住宅地はなぜ北を中心に拡大したのか？―仙台都市圏での居住地変化の歴史①―」
1月20日(土) 15:00▶16:30
講　師　千葉　昭彦（東北学院大学経済学部教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 80名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先 TEL 022-264-6406
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

第３回れきはく講座「阿倍比羅夫の北方遠征―謎に包まれた遠征の目的に迫る―」
1月21日(日) 13:30▶15:00
講　師　相澤　秀太郎（東北歴史博物館学芸職員）　無料　申込不要
場所　東北歴史博物館　３階講堂
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

ろうさい医イはなし「胆石の治療について」
1月24日(水) 13:30▶14:15
講　師　徳村　弘実（東北労災病院副院長）　無料　申込不要
場所　東北労災病院　１階待合ホール
主催者　東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL　http://www.tohokuh.johas.go.jp/

市民公開講座 No.413「仙台城　お城でござる」
1月26日(金) 18:00▶19:30
講　師　小山　祐司（東北工業大学安全安心生活デザイン学科教授）　無料　申込不要
場所　東北工業大学一番町ロビー　２階ホール　定員 120名
主催者　東北工業大学　問合先 TEL 022-723-0538
URL　http://www.tohtech.ac.jp/

記念講演会「陸羽東線 C58 の時代」
1月27日(土) 13:30▶
講　師　眞船　直樹（元酪農学園大学教授）　無料　申込不要
場所　東北福祉大学ステーションキャンパス S300 教室
主催者　東北福祉大学・鉄道交流ステーション　問合先 TEL 022-728-6612
URL　http://www.tfu.ac.jp/rmlc/

第 14 回 東北大学男女共同参画シンポジウム「性・生・制を考える」
1月28日(日) 13:00▶17:00
講　師　原山　優子（内閣府総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）他　無料　申込不要
場所　東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーディトリアム）
主催者　東北大学男女共同参画委員会　問合先 TEL 022-217-4811
URL　http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/

第４回れきはく講座「遺構の展示」
1月28日(日) 13:30▶15:00
講　師　芳賀　文絵（東北歴史博物館学芸職員）　無料　申込不要
場所　東北歴史博物館　３階講堂
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

特別観察会「皆既月食をみよう！！」
1月31日(水) 19:30▶23:30
※休館日につき、イベント開催時間のみの臨時開館となります。　無料　申込不要
場所　仙台市天文台入口前、加藤・小坂ホール
主催者　仙台市天文台　問合先 TEL 022-391-1300
URL　http://www.sendai-astro.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記

「学び」イベントに行ってきました

■フィンランド独立 100 周年記念 フィンランド・デザイン展

2017 年 10 月 28 日（土）～ 2017 年 12 月 24 日（日）
宮城県美術館

フィンランドのブランド「マリメッコ」がもともと好きだったので、楽しみにしていました。別の施設でも行われていた「マリメッコ展」に行ったときに日本人のデザイナーさんがいることをはじめて知り、氣になっていました。今回の「フィンランド・デザイン展」では、その方の別の作品も見られました。陶器でできた大きな花の作品が素敵でした。行ってみて良かったです。　（盛岡市　いとう）

参加体験記

編集部も「学び」イベントに行ってきました

■ぼうさいこくたい（防災推進国民大会 2017）

2017 年 11 月 26 日（日）～ 2017 年 11 月 27 日（月）
仙台国際センター・せんだい青葉山交流広場

防災推進国民大会 2017 実行委員会（内閣府（防災担当）、防災推進国民会議、防災推進協議会）が主催した「ぼうさいこくたい」に参加しました。「ぼうさいこくたい」自体は 26・27 日の二日間の開催とのことでしたが、それに合わせて 25 日から 28 日まで同じ会場において「世界防災フォーラム／防災ダボス会議 2017@ 仙台」が開催されており、日本国内に限らず海外からの参加者もみられ、非常に規模の大きいイベントとなっていました。

「ぼうさいこくたい」の開会式では、小比木八郎内閣府特命担当大臣（防災）の開会宣言にはじまり、村井嘉浩宮城県知事、郡和子仙台市長などによる主催挨拶、その後にハイレベル・パネルディスカッション「大規模災害に備える連携」と題して、日本や海外における防災の実践活動の紹介が行われました。このほかにも、防災教育の実践例の紹介や発災時の備蓄に関する講演などが行われ、防災に関して幅広い角度からこれまで行われてきた活動を知ることができました。一部の講演についてはインターネット上で視聴することができるようです（https://freshlive.tv/bosai-kokutai）。

講演会の他にも様々な団体によるブース展示のコーナーがあり、そこでは出展者から防災への取り組みについて直接話を伺うことができました。ブース展示のコーナーでは高校生や大学生が中心となって活動している防災への取り組みも充実していました。例えば、仙台白百合学園高等学校のブースでは、高校生たちが台湾での海外研修などを踏まえて作成した外国人向け防災・減災パンフレットについて紹介されていました。実際にいただいたパンフレットでは、様々な災害に対する備えが英語で紹介されていました。またイラストもわかりやすいものになっており、このパンフレットがあれば日本語がわからない方に非常に役に立つに違いないと思います。今後、中国語版のパンフレットも製作されるそうです。自分の高校生の頃と比べてなんて偉いんだろう、などと思いながら、高校生や大学生など若い人たちも積極的に防災への取り組みを行っていることを知ることができるいい機会となりました。

「まなびのめ」編集部　佐々木隼相

「まなびのめ」主な設置場所

「まなびのめ」紙版は、主に下記の場所で入手できます。見当たらないときはお氣軽にお問い合わせください。

- **宮城県内各大学**
- **宮城県内主な文化施設**（宮城県図書館、宮城県美術館、東北歴史博物館、仙台市各図書館、仙台市博物館、仙台文学館、スリーエム仙台市科学館、地底の森ミュージアム、仙台市歴史民俗資料館、仙台市天文台、感覚ミュージアムなど）
- **宮城県内主な会館**（東京エレクトロンホール宮城、日立システムズホール仙台、トークネットホール仙台、仙台市戦災復興記念館、名取市文化会館、岩沼市民会館、えずこホール、白石市ホワイトキューブ、まほろばホールなど）
- **主な市民センター**（仙台市）、**公民館**（仙台近郊）、**公立図書館**（仙台近郊）など

「まなびのめ」配色法：襲色目（かさねのいろめ）
第 39 号・冬／「枯色」（kare-iro）

読者の声

Voice Park

読者と編集部のキャッチボール

第 38 号　教ぇ育っ

「名著への旅」で紹介されていた書籍が興味深かったです。政治が混迷を極める中、権利について考えてみるのもいいかなと思いまして、今度読んでみたいと思います。　（仙台市太白区・38 歳　男性）

編：一見、自由と権利を享受しているように見える現代社会ですが、果たして本当にそうなのか、と自分自身と社会に問い直してみることは大事なことではないかと思います。

いつも楽しみに読んでいます。研究者の方たちが身近に感じられて、その分野まで親しみを感じます。ほかの媒体で見たり聞いたりすると、私の中のアンテナも反応するようです！　（仙台市若林区・59 歳　女性）

編：知的探求の愉悦がビンビン伝わってくるようで、私達も大変うれしく思います。身の周りにはまだまだ知らないことがいっぱいなので、今後とも「まなびのめ」を十二分にご活用ください。

先生方のインタビューが良いです。次は仙台白百合女子大学の客員教授になられた将棋棋士、加藤一二三先生を取り上げてください。

（大崎市・39 歳　男性）

編：確かにとても氣になる存在ではありますね。インタビューする場合、将棋関連やクリスチャンとして、など、様々な視点が考えられますが、どのような内容に特に興味が湧くでしょうか？　ふさわしいテーマがあれば、いつか取材に至るかもしれません。

普通では考えられない視点からの内容が新鮮だった。

（仙台市宮城野区・44 歳　男性）

編：一つのテーマでも、別の研究分野からのお話を聴けるように、「視点」を氣にしています。

先日、第 13 回文字・活字とのふれあい Day に参加して、「まなびのめ」を頂きました。子ども二人と一緒に初めて参加させていただきました。楽しい時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。「まなびのめ」の存在も初めて知りました。こんなにたくさんの「学び」イベントが行われていたのですね。子どもが小さく、一人で参加は出来ないので、子どもと一緒に参加できるものがあれば参加してみたいです。柴田先生、久保先生の記事は、とても参考になりました。

（仙台市若林区・32 歳　女性）

編：ご来場いただき、ありがとうございます。天文台や東北大学などで子ども向け・家族向けのイベントを開催していることがあります。情報が入り次第「まなびのめ」Web 版でも随時ご紹介いたします。

その他のお便りと編集部からのコメントは Web 版でご覧いただけます。

参加体験記

「学び」イベントに参加したら感想を書こう!

読者の皆様が参加された、「学び」イベントの感想やレポートをお待ちしています。
掲載採用させていただいた方のうち毎号1名様に1000円分の図書カードを進呈!
ご投稿いただいた全員にもれなく粗品をプレゼント!
※採用の可否、図書カード当選者は編集部に一任いただきます。
■ 投稿方法　はがき、FAX、E-mail、Web版投稿フォームにて受付。
■ 投稿先　「まなびのめ」編集部　※詳細は最終ページをご覧ください。

粗品 金賞

第38号 まなびのめクイズの正解発表!!

「まなびのめ」第38号懸賞クイズの正解は下記のとおりです。

Q.1　フィンランドですべての自治体にある子育て支援の仕組みの名称は？
答え　ネウボラ

Q.2　宮城教育大学がBPプロジェクトで担当しているテーマは？
答え　特別支援教育といじめ

図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分　図書カード 1,000円分

今号も「まなびのめ」クイズを実施しております。正解者の中から**抽選で3名様に図書カードが当たります**ので、奮ってご応募ください!! ※詳細は研究者インタビューページをご覧ください。

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要

▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

2 FEB

講座仙台学 2018「仙台のスポーツとボランティア」
2月 3日(土) 10:30▶12:00
講　師　村松　淳司（東北大学多元物質科学研究所教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 80名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-4933
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

講座仙台学 2018「仙台の地名と災害」
2月 3日(土) 13:00▶14:30
講　師　佐藤　健（東北大学災害科学国際研究所教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 80名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先 TEL 022-795-4933
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/

第５回れきはく講座「名所の風景―江戸時代の塩竈・松島図を中心に―」
2月 4日(日) 13:30▶15:00
講　師　大久保　春野（東北歴史博物館学芸職員）　無料　申込不要
場所　東北歴史博物館　３階講堂
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

講座仙台学 2018「仙台駅裏ものがたり」
2月10日(土) 10:30▶12:00
講　師　佐々木　秀之（宮城大学事業構想学群准教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 60名
主催者　学都仙台コンソーシアム・宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL　http://www.myu.ac.jp/

講座仙台学 2018「江戸時代の仙台、平成の仙台」
2月10日(土) 13:00▶14:30
講　師　三好　俊文（宮城大学基盤教育群准教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 60名
主催者　学都仙台コンソーシアム・宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL　http://www.myu.ac.jp/

講座仙台学 2018「人口で見る仙台の過去・現在・未来」
2月10日(土) 15:00▶16:30
講　師　萩原　潤（宮城大学看護学群准教授）　無料　要申込
場所　仙台市市民活動サポートセンター　6階セミナーホール　定員 60名
主催者　学都仙台コンソーシアム・宮城大学　問合先 TEL 022-377-8208
URL　http://www.myu.ac.jp/

第６回れきはく講座「エミシとよばれた人々のくらし」
2月11日(日) 13:30▶15:00
講　師　佐藤　憲幸（東北歴史博物館学芸職員）　無料　申込不要
場所　東北歴史博物館　３階講堂
主催者　東北歴史博物館　問合先 TEL 022-368-0106
URL　http://www.thm.pref.miyagi.jp/

ろうさい医イはなし「胃癌の腹腔鏡下手術について」
2月14日(水) 13:30▶14:15
講　師　安本　明浩（東北労災病院胃外科副部長）　無料　申込不要
場所　東北労災病院　１階待合ホール
主催者　東北労災病院地域医療連携センター　問合先 TEL 022-275-1467
URL　http://www.tohokuh.johas.go.jp/

第 149 回サイエンスカフェ：宇宙に響くさえずりとジオスペース
2月23日(金) 18:00▶19:45
講　師　加藤　雄人（東北大学大学院理学研究科准教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　１階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先 TEL 022-217-5132
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

シンポジウム「ジョン・ラ・ファージ（1835-1910）の日光アメリカのステンドグラス復興とジャポニスムのパイオニア」
2月24日(土) 13:00▶18:00
講　師　フィリス・フロイト（ミシガン州立大学准教授）他　無料　申込不要
場所　東北学院大学 ホーイ記念館ホール　問合先 TEL 022-264-6547
主催者　東北学院大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」
URL　http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略